

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

経営戦略専攻

| |
|---|
| <p>5.0.1 入学者受け入れ方針等（門戸開放） （企業経営戦略コース） 当初想定していた通り、入学者は幅広い年齢層を持ち、所属企業の業種も多岐にわたっている。第一線の若手から経営者、管理者が集まったことで、企業内では得がたい学生同士のコミュニケーションが行われる等、ビジネススクール固有の効果が生まれている。 実務経験、強い意欲を持った社会人の送り出しを企業に要請するため、「企業・自治体等推薦入試」の制度を設置した。教職員による企業訪問等の活動の結果、推薦による入学者は全体の10%程度に達している。今後修了生の増加、ビジネススクールに対する認知度の向上とともに、企業内教育として定着、この比率はさらに増加するものと期待している。</p> <p>（国際経営コース） 本学、他大学からの学部進学者だけでなく、外国人留学生や社会人も対象として学生募集を行っている。</p> <p>5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法 （企業経営戦略コース） 春入学に加えて秋入学制度を設けたが、社会人には仕事との関係で様々な事情があって秋入学希望者が約1/3に達しており、この制度は広く優秀な社会人を集めるといった効果を挙げていると考えられる。 入学者に実務経験3年以上という制約を設けたが、ビジネスの基本的仕組み、業務に対する具体的なイメージ等が学生間で共有されているため、それを前提にした効率的な授業が可能である。 また、多彩な人材を確保するため、「企業・自治体等推薦入試」により、提携企業、自治体から推薦された学生を受け入れている。</p> <p>（国際経営コース） 学部新卒者、社会人、外国人留学生を対象に、英語による面接試験・小論文・専門科目試験を実施している。</p> <p>5.0.3 入学者選抜の仕組み （企業経営戦略コース） 対象が社会人であり、学内推薦制度は採用していない。 （国際経営コース） 学内推薦制度は採用していない。</p> <p>5.0.4 入学者選抜方法の検証 今後、入学時の成績と入学後の成績との関連性の調査を行う予定である。</p> <p>5.0.6 飛び入学 （企業経営戦略コース） 社会人で実務経験が3年以上というのが受験資格であり、飛び入学は該当しない。 （国際経営コース） 2007年度春学期入学入試にて、早期卒業見込者が1人受験したが、平均点が条件に達していなかったため早期卒業できず、入学できなかった。</p> <p>5.0.8 社会人学生の受け入れ （企業経営戦略コース） 実務経験3年以上の社会人が入学の条件である。 （国際経営コース） 現在、国際経営コースの2006年度入学者13人のうち、3人が社会人であった。</p> <p>5.0.9 科目等履修生、聴講生等 科目等履修生制度により、業務の都合上によって正規の入学が困難、あるいは将来の入学を検討している社会人を受入れている。2006年春学期は12人、秋学期は13人の受講者が存在し、2007年春学期に9人が入学した。 また、研究科修了生を対象にした聴講生制度を設けた。在学中に受けられなかった授業を聴講できるということで学生からの申し込みが出ており、2006年度春学期は1人、秋学期は2人の受講があった。</p> <p>5.0.10 外国人留学生の受け入れ 外国人留学生は、企業経営戦略コースに1人、国際経営コースに5人が在籍している。</p> <p>5.0.11 定員管理 2006年度、2007年度の入学試験においても引き続き募集定員を明確に分けず、すなわち、春秋2回の合格者合計で定員を充足するべく入学試験を行った。秋入学希望者も一定の比率存在しており、全体として業種、職種、年齢、性別等、多様な社会人を受入れることができた。</p> |
|---|

会計専門職専攻

| |
|--|
| <p>5.0.1 入学者受け入れ方針等（門戸開放） 5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法 5.0.3 入学者選抜の仕組み 会計専門職専攻では、西日本の特定の大学との指定校推薦入試制度と全国の自治体との地方自治体推薦入試制度の導入に関する覚書を締結し、また学内推薦制度を通じて優秀な学生の受け入れに取り組んでいる。これらの入試制度は、より優秀な人材に対するより肌理細やかな理論的・実践的教育機関と社会人のリカレント教育機関としてのアカウンティングスクールのミッションを果たすための措置として位置づけている。一般入試に加えて、この推薦入試制度により、提携大学、提携企業および自治体から、学内や社内公募と選考により推薦された優秀かつ多彩な人材を確保する効果が生じ始めている。また、会計専門職専攻における平日夜間と土曜の開講授業科目について拡充しているが、この点は他のアカウンティングスクールとの学生募集上の競合において、とくに社会人へのアピール効果は大きく、学生の受け入れに直結しているところである。</p> <p>5.0.6 飛び入学 2007年度春学期入学入試にて、早期卒業見込者4人が受験し、4人が入学した。</p> |
|--|

5.0.8社会人学生の受け入れ
2006年度入学者95人のうち、48人が社会人であった。

5.0.9科目等履修生、聴講生等
科目等履修生制度により、業務の都合上によって正規の入学が困難、あるいは将来の入学を検討している社会人を受入れている。2006年春学期は3人、秋学期は2人の受講者が存在し、2007年春学期に1名が入学した。
また、研究科修了生を対象にした聴講生制度を設けた。

5.0.10外国人留学生の受け入れ
外国人留学生は、1人が在籍している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

会計専門職専攻では、覚書を締結した企業から推薦により学生を受け入れる予定であったが、働きながら公認会計士試験を合格することは相当な負担となることから、一般企業からの推薦の要請はなかった。

学内第三者評価

2005年の自己点検・評価で記された「具体的方策」を踏まえて、詳細な学生の受け入れについての目標の達成等が報告がなされていることは評価できる。
ただ、経営戦略専攻の国際経営コースが継続して定員を充足していないなど、必ずしも当初の目標を達成していない場合もあり、今後も継続して新たな施策の検討が期待される。
経営戦略専攻では、社会人の受け入れに関し様々な施策を打っているのは評価できる。特に国際経営コースでは、国内型、海外型の入試を実施しており、国内外それぞれに特化した施策が必要と思われる。
会計専門職専攻では、指定校推薦入試制度、地方自治体推薦入試制度、学内推薦制度と多様な推薦入試制度を持っていることは評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・学生募集に対する様々な取り組みが効果をあげていると評価できる。